序

今年度は研究所恒例の実践記録の募集に，新たに教育論文を加えましたが，例年に見られない多数（教育論文７編，教育実践記録１３編の計２０編）の盛んな応募があり，先生がたの熱心な研究意欲に大きな感銘を受けたことであります。

教育論文７編の内訳は教育の未来像を考える２１世紀の教育に関するものが２編，教育の現代化に関するものが３編，教師の使命観に関するものが２編となっており，当今問題にあがっているものに取り組んで，それぞれに追求を深めたものであります。

教育実践記録１３編の内訳は，国語科に関するもの２，社会科に関するもの２，家庭学習に関するもの２，理科に関するもの１，体力づくりに関するもの１．道徳に関するもの１，特活に関するもの１，現職教育に関するもの１，研究学校運営に関するもの１，放送教育に関するもの１，となっております。これらもまた，それぞれ研究と創意のうえに立って実践されたものの記録で，現場の指導に多くの示唆を与えてくれるものと思われます。ただし，この度の応募に，算数，数学に関するものが，1編もなかったのは少しさびしい感じがいたします。

なお，今年度は応募作品のうち，実践記録については，そのひとつひとつに対し，教育論文については，全体を通しての感想を加えることにしました。

これは南木所長時代の例にならったものですが，一つには，応募者の熱心な研究に対しての反応が，かえって研究をもりあげるよすがになろうかとも考えられるからであり，二つには，応募されたものは特別のものを除いてすべて掲載するたて前をとったことから，時として，研究所の立場を明らかにする必要を生ずる場合もあるということにも関係するものです。

また，これらの感想のなかには，かなり詳細にわたったものもありますが，それは，それだけに重要な問題を含んでおり，論ずるに足るものであることを示すものであると言えましょう。

いずれにしても，こう紙面をとおして，教育理論の問題，実践問題などが論じあわれるということは，きわめて結構なことであり，さらに，これらの記録を基として本地区の研究論議が，今後いっそう盛んになり，向上発展することをひたすらに念願するものであります。

昭和４３年４月

足利市立教育研究所長　大　滝　徳　海